

Memento

特別措置法後の部落解放運動 アメリカ黒人運動の苦境に学ぶ

灘本昌久

特措法時代の終焉

来る3月末日をもって、1969年に成立した同和対策事業特別措置法（およびその延長上にあった地対法、地対財特法）にもとづく同和事業体制が終結する。私が部落問題に取り組みだしたのが、1972年、高校1年生の時だったので、この30年間の経験は、特措法時代とほぼ重なることになり、その一時代が一区切りつくと思うと、いささかの感慨がある。

その感慨というのは、決して否定的なものではない。あれこれ数字をあげれば課題をあげつらうことはできるが、私が間近に見ている京都の同和地区の現状にとって、「差別と貧困に苦しむ」という表現は、過去のものである。「同和事業は、成功裏に終結した」あるいは、「同和行政闘争は勝利した！」と叫んでも、誇大広告の誇りをうけることはないと思う。どれほど細部において課題が残っていようと、被差別マイノリティがここまで向上発展し、差別を解消してきた歩みは、他国にほとんど例を見ない。

したがって、このたびの特措法時代の終結は、それ自体としては、部落問題の将来にとって悲観すべきことではなく、むしろ更なる前進の好機となりうるものである。従来の部落解放運動は、たとえていうなら、

ジャンボジェットに部落大衆をのせて、空中給油を繰り返しながら（法の度重なる延長）、高速で長距離を飛んできたようなものであるが、いつまでも飛びつづけるわけにはいかない。ここで軟着陸して、健康体をとりもどした人は自転車に分乗し、できれば病弱な人を一人でも乗せて、しっかりと地べたを快走していきたいものである。

特措法後の新しい理念

ところで、同和事業の終結と部落解放運動の軟着陸は、この3月でうまくいくだろうか。

1986年に地対協意見具申が出て、政府側からの同和事業打ち切りが明確に示された。当時、すでに同和事業の肥大化は頂点に達しており、部落差別撤廃の見地から見て、本当に必要なかどうか疑問の施策が数々あったことは事実で、事業の適正化をはかるのは政府や行政として当然の責任であったろうと思う。しかし、政府側が部落の現状を正確に分析し、自信をもって縮小・廃止の方針を出したのかといえそうではなく、むしろ、部落解放運動に押しまかれた末に、我慢できなくなって逆襲したようなところがあった。そして、残念なことに部落解放運動の側も、行政闘争・糾弾闘争がもっとも肥大化・硬直化した時代であった

ので、政府の逆襲に逆・逆襲を企てるような構図になってしまった。それ以後、運動は同和事業の強化継続を求めて部落解放基本法獲得に走り、一方、政府は事業の縮小を進めながらも正面衝突は避け、特措法の継続を繰り返しつつ解放運動の体力消耗、安楽死を画策した。政府・官僚と解放運動の綱引きは、9対1で政府側の勝利に帰し、運動の手には「人権教育啓発推進法」がかるうじて残った。以上が、この10数年間の同和事業・部落解放運動を振り返っての、私の個人的観察である。

時間が止まったような進歩のない10数年を経て、同和事業は打ち切れようとしている。従来の同和事業を漫然と続けるべきではなく、打ち切りはやむなしと思うが、機械的の清算には反対である。社会を下支えするような仕組みを軽々に放棄するのは危険であり、従来の同和事業の経験と成果をふまえて、敗者を出さないような社会のシステムをもう少し普遍的な形で（＝部落など狭い範囲に限ることなく）模索していく必要がある。

そこで、やや迂遠な方法であるが、アメリカにおける人種差別をめぐる論争を紹介し、今後の日本社会にとって、社会的公正を確保するために何に焦点をあてていけばよいかを考える参考に供したい。

アメリカにおける人種問題をめぐる論争

この30年来、アメリカでは、どのような方策が社会的公正をたもつことになるかということをめぐる、多くの議論が闘わされてきている。その中で、私は著名な黒人社会学者であるウィリアム・ジュリアス・ウィルソンの理論に注目したいと思う。ウィルソンは、都市問題研究で有名なシカゴ大学で24年間研究し、その後ハーバード大学に招かれて現在にいたっている。

彼を一躍有名にしたのは、1978年に著した『低下する人種の有意性』である。この中でウィルソンが主張したポイントはふたつある。ひとつは、黒人の中に中産階級が登場してきており、彼らは1964年に成立した公民権法およびアフーマティブ・アクション（差別

是正のためのマイノリティ優遇政策）でかなりの利益を得たこと。もうひとつは、黒人の中でもとりわけ恵まれない階層である「アンダークラス」（ロークラスのさらに下の最貧困層）が増大しており、この階層に対する政策が肝要であるが、アフーマティブ・アクションのような政策は、アンダークラスの助けにはならないということである。そして、ある個人の経済的社会的境遇を決定する要因として、従来はどの人種に属しているかということが重要であったが、現在はその人種の有意性は低下してきており、生れ落ちた家庭の境遇が恵まれているかどうかという階級（階層）的要因のほうが重要になってきているというものであった。

これにたいして、黒人運動・研究者からは、中産階級の登場を理由に黒人全体が良くなっているような幻想を振りまくものであり、人種問題の軽視につながるとして、強い反発があったことは以前に紹介したとおりである。(注)

その後、ウィルソンは、『本当に不利な立場に置かれた人々』（1987年）、『仕事が終わるとき』（1996年）と重要な著作を著し、現在に至っている（以下の記述は、基本的に両著に負っている）。そうした著作の中で、語られるアンダークラスの生活の悲惨さは、日本社会からは想像を絶するものがある。

モイニハン報告をめぐる論争とその後

ところで、ウィルソンが指摘しているように、黒人の下層の人々の困難について、実はもっと早くから研究があった。その代表的なものが、ダニエル・パトリック・モイニハンによる調査報告書「黒人家族 国家の行動を必要とする問題」、通称「モイニハン報告」である。彼は、1961年からケネディ、ジョンソン、ニクソン、フォードの4人の大統領のもとで、労働長官特別補佐官や国連大使など重要ポストを歴任し、1976年からは4期連続してニューヨーク州選出の上院議員をつとめ、ハーバード大学で10年以上にわたって貧困・失業問題などを教えた社会政策のエキスパートである。

彼は報告書で、「黒人コミュニティは二つに分裂しつつある。すなわち、着実に経済力をつけて、ますます豊かになっていく安定した中産階級と、ばらばらにされて、ますます不利な立場に置かれていく下層階級に分裂しつつある」と分析した。そして、黒人家族が、離婚や別居の増加、女性世帯主と婚外子の増加などにより、崩壊の危機にあることを率直に指摘した。しかし、台頭しつつあった「ブラック・パワー」の黒人運動家やリベラルな研究者の多くは、都市部での黒人の社会病理的現実を指摘すること自体を好まず、人種差別であるとみなして、集中砲火をあびせた。そして、モイニハンが散々に批判される姿をみて、リベラル派は都市中心部のマイノリティ研究から手を引いてしまう。ウィルソンによれば、1970年頃になると、アンダークラスの調査でイデオロギー的批判に晒されない調査といえば、黒人の社会学者が都市中心部の黒人家族・コミュニティの強靱さについて調査したものぐらいしか、存在し得ない状況にまでなったという（『本当に不利な立場に置かれた人々』p.40）。そうしている間に、1984年に刊行されたチャールズ・マレーの『地盤喪失』のように、黒人貧困層のかかえる問題を、すべて福祉依存の責任にする保守派の論議が主導権を握るようになる。1980年代は、ほとんど保守派の独壇場となり、反福祉を叫ぶ声がリベラル派を圧倒する。

ウィルソンの孤軍奮闘

このように、リベラル派が説得力を失って、保守派の議論が横行することにたいして、ウィルソンは孤軍奮闘してきた。彼は、黒人運動やリベラル派が、アンダークラスの存在自体を否定したり、黒人の積極的な点を一面的・恣意的にとりだしてことたれりとする傾向に対して、失業が慢性化している都市中心部に滞留するアンダークラスの黒人たちが、如何に破滅的な生活を余儀なくされているかを指摘する一方、福祉の行き過ぎが、アンダークラスを生み出すもとであるとす保守派の議論にも、都市部における製造業の空洞化こそが、工場労働者として雇用されてきた黒人たちを

慢性的失業につきおとしていったもっとも根本的な原因であると反論している。そして、行き過ぎたアフーマティブ・アクションを是正しつつ、保守派の強調する福祉の切捨てにも反対するウィルソンは、「全国民を視野に入れた社会政策」を提案する。彼は、現在の黒人解放運動が、人種差別の問題を中心におくあまり、成長した黒人中産階級と、慢性的な失業・貧困に苦しむアンダークラスの黒人を、黒人であるということだけでひとまとめにしてしまっており、そのために、国民的支持をとりつけた対策がとれなくなっていると考えている。そして、それを克服するために、黒人以外の貧困者に対しても同様の効果をもっている政策の必要を強調している。

ただ、彼の提案は、しばしば日本やドイツあるいはヨーロッパ諸国がモデルとして登場することからもわかるように、とりたてて我々には目新しいものではない。むしろ、失業対策事業による雇用の創出、全員加入の健康保険、保育の充実、都市と郊外をむすぶ自動車によらない公共交通機関の整備など、日本では既に相当充実・完備しているものが多い。こうしたことに無為無策で、今まで放置してきたことのほうがむしろ驚きで、アメリカという国が、如何に都市政策、社会政策の貧しい国かということに呆れてしまう。

日本の将来をみすえて

では、アメリカが今苦しんでいる都市中心部の衰退、貧困化は、日本にとっては解決済みの問題だろうか。この点は、『仕事がなくなるとき』の「訳者あとがき」でも触れられているように、日本でも深刻化すると見ておいたほうがいいだろう。1970、80年代に、日本の自動車産業、鉄鋼業などが競争力をつけてアメリカの製造業をなぎたおしたように、今や、日本の製造業も韓国、台湾、シンガポールなどの新興工業国・地域の追撃を受けて、急速に空洞化しつつある。また、農業製品でさえ、中国製品が怒涛のごとく流入しようとしている。日本は、ハイテク部門で先頭を走る以外に、こうした経済のグローバル化に対処する道はなく、労

働者に高度の教育・技能を要求せざるを得なくなる。そのことは、逆に教育を受けられなかった人たちの貧困化をさらに加速するだろう。また、現在は長期化する不況で、とりあえず先送りされている感があるが、少子高齢化による労働力の不足は、外国人労働力の大量移入を不可避とする。

こうしてみると、アメリカでかなり極端なかたちで進行している都市の衰退と貧困化は、決してよそ事ではなく、今後日本においても現実起こってくると考えておいたほうがいだろう。そして、問題が起こってからそれを是正するのが如何にたいへんなことかは、アメリカでの事態が如実にしめしている。ひとたび失業が蔓延して、コミュニティが崩壊したときは、そこはブラックホールのように様々な問題を引き込んで悪循環に陥ってしまうのである。そうならないように、地域のまとまりを高め、生活困難層の人たちが社会から脱落してしまわないように、我々全体が協力しあう社会をつくっていかなくてはならないだろう。

そのためにという理由で、従来の同和事業の継続を主張されるむきもあるが、私は、それは不都合だと思っている。従来の同和事業の根底には、部落の貧困は部落差別の結果起こってきているので、一般の貧困とは性質が違うという前提が存在する。そのため、対策を同和地区に限定しており、逆に同和地区住民であるという理由で、生活がそこそかなりたっている人に対してまで、貧困対策を実施してしまうという誤りをおかしてきた。これからは、上に述べたような産業の空洞化や外国製品の流入、それに伴う産業構造の急激な変化など、様々な理由で、生活が成り立ち難くなる人が多くでてくるだろう。当然、その中には同和地区住民も相当数含まれるはずである。そうした人を広く薄く、そして必要な限りで狭く深く救済し、自立できるように下支えする新たな仕組みと、新たな理念、新たな運動が必要とされるだろう。(なだもと まさひさ/京都部落問題研究資料センター所長)

(注)この著作およびそれへの反響については、本誌

の前身である京都部落史研究所月報『こべる』に紹介の文を書いた。また、この著作に比較的詳しく触れた日本語文献としては、大塚秀之氏の論考がある。

参考・引用文献

- Wilson, William Julius. 1978. *The Declining Significance of Race: Blacks and Changing American Institutions*. 2nd ed. Chicago: University of Chicago Press.
- . 1987. *The Truly Disadvantaged: The Inner City, the Underclass, and Public Policy*. Chicago: University of Chicago Press. (青木秀男監訳『アメリカのアンダークラス 本当に不利な立場に置かれた人々』明石書店, 1999年)
- . 1996. *When Work Disappears: The World of the New Urban Poor*. New York: Alfred A. Knopf. (川島正樹・竹本友子訳『アメリカ大都市の貧困と差別 仕事がなくなるとき』明石書店, 1999年)
- 大塚秀之『現代アメリカ合衆国論』(兵庫部落問題研究所, 1992年)
- 灘本昌久「アメリカにおける黒人問題研究の一争点 人種的要因と階級的要因をめぐって」(京都部落史研究所月報『こべる』102号, 1986年6月号)
- モイニハン, ダニエル・パトリック『政治家は、未来を告げる声を聞く 病めるアメリカと闘った三十年』(社会思想社, 1998年)

追悼 井上清先生

師岡佑行

井上清先生が亡くなられた。87歳だった。

敗戦の混迷のなかでわたしたち青年が渴望する日本の歴史のすがたを、あざやかに示されたのが井上先生だった。その最初のお仕事が文部省発行の歴史教科書『くにのあゆみ』批判であり、そこに見られた反権力の姿勢を最後まで貫かれた。近代史研究に先鞭を付けられ、とりわけ天皇制、女性史、琉球処分の問題、部落史などの分野でマルクス主義理論のうえに立って「人民」の立場から解明につとめられた。

そればかりではなく、日本の通史を『日本の歴史』（岩波新書3冊）に簡潔にまとめられたことは先生の学識の深さを端的に物語るものといえる。昨年春に亡くなられた歴史家奈良本辰也先生が「井上君は秀才じゃ」と評されたのは、なによりもこのお仕事をさしている。ともに1903年生まれ、同年だった。

先生にはじめてお会いしたのは1950年代のなかば、学生だったわたしたちが企画した、市民のための日本史夏季講座に講師としてお招きしたときだった。聴衆のひとりが質問し、先生が答えられたが、やや皮肉をふくんだ内容だった。準備をすすめてきたわたしたちはこれに不満で先生のもとに抗議にいった。先生はこれをよく覚えておられ、「君は女子学生を連れて研究室に文句を言いに来たのが最初だったナ」と時々話されることがあった。

しかし、それを根にもたれるようなことはまったくなかった。わたしが初めて世に送った単著は尼崎市役所発行の『尼崎の戦後史』（1969年刊）だが、その記述に気に入らない議員の横車でお蔵入りとなり、発売をもとめる声がおこり、市民運動となった。先生は同市の労働会館にまで足を運ばれ、言論、表現の自由について訴えられた。これを期に運動がもりあがり、ほぼ一年後、無修正のまま発行することとなった。先生はたんなる言論人ではなかったのである。

部落問題認識のキーワードとしての身分・地域・職業を統一的にとらえる三位一体論を明らかにして部落

解放理論を確立、運動の中枢に加わり、「部落解放同盟」の名付け親のひとりだった。後年、わたしたちが京都部落史研究所（現・京都部落問題研究資料センター）を発足させたとき、先生には代表委員をお願いしたが、よろこんでお引受けいただいた。

先生が部落問題に関心を寄せられた直接のきっかけは、師にあたる羽仁五郎氏が戦後最初の参議院議員選挙に立候補、先生は京都で関西の選挙を取り仕切られたが、その折、朝田善之助氏や木村京太郎、三木一平氏ら部落解放全国委員会のリーダーと親交を結んだことであった。しかし、それより先、東大卒業後、勤務した東大史料編纂所で同僚だった部落出身の三谷藤四郎氏から部落史研究をすすめられたこと。さらに切実には、タイピストだった「和服をきちんと着こなした」若い女性の突然の自殺だった。彼女は同所に勤める男性と恋仲となるが、部落の出だということで結婚を断られての死だった。この衝撃的な事実が井上先生の部落問題研究の出発点であった。

先生は日中の学术交流につくされてきたが、80歳を越えてアジア民衆の連帯のために積極的に動かされた。84歳の老齢で「国際シンポジウム・第1回東アジア平和と人権台湾大会」では報告者として演壇に立たれ、沖縄で開かれた第3回大会では代表をつとめられた。一昨年、京都のご自宅にうかがったとき、退院直後だったが、眉をそびやかすようにして、このときの話をなさったことが思い出される。（もろおか すけゆき / 元京都部落史研究所所長・沖縄在住）

座談会「『京都の部落史2 近現代』を読んで」にて（1992年1月）

井上清先生編著書一覽(発行年順)

『人文学報』48号(京都大学人文科学研究所刊, 1980年)
並びに、国立国会図書館の書誌情報を参照しました

- くにのあゆみ批判 正しい日本歴史(解放社刊, 1947年)
- 日本政治腐敗史(三一書房刊, 1948年)
- 日本歴史(ナウカ社刊, 1948年)
- 日本女性史(三一書房刊, 1949年)
- 革命史講座 第1(ナウカ社刊, 1949年)
- 歴史教育論 社会科の根本問題(三一書房刊, 1949年)
- 文部省「民主主義」解説と批判(三一書房刊, 1949年)
- 亡びゆく社会と生れくる社会(全通信労働組合出版部刊, 1949年)
- 日本の歴史 増補「くにのあゆみ」批判(ナウカ社刊, 1950年)
- 日本現代史 第1巻 明治維新(東京大学出版部刊, 1951年)
- 現代日本の歴史 上, 下(共著, 青木書店刊, 1952, 1953年)
- 日本歴史講座 第7巻 現代編(河出書房刊, 1953年)
- 日本の軍国主義 第1, 第2(東京大学出版会刊, 1953年)
- 天皇制(東京大学出版会刊, 1953年)
- 日本の歴史 「くにのあゆみ」批判(三一書房刊, 1953年)
- 日本女性史 改訂版(三一書房刊, 1953年)
- 物語日本の農民運動(監修, 理論社刊, 1954年)
- 戦後部落解放運動史(部落問題研究所刊, 1954年)
- 条約改正 明治の民族問題(岩波書店刊, 1955年)
- 日本の歴史 「くにのあゆみ」批判 上, 下(三一書房刊, 1955年, 三一新書)
- 日本女性史 上, 下(三一書房刊, 1955年, 三一新書)
- 歴史と現代(大月書店刊, 1955年)
- 日本近代史 上巻, 下巻(共著, 合同出版社刊, 1955, 1956年, 合同新書)
- 部落の歴史 物語・部落解放運動史(共著, 理論社刊, 1956年)
- 日本近代史(共著, 合同出版社刊, 1957年)
- 米騒動の研究 第1巻~第5巻(共編, 有斐閣刊, 1959年~1962年)
- 部落問題の研究 その歴史と解放理論(部落問題研究所刊, 1959年)
- 日本人物史大系 第7巻 近代第3(朝倉書店刊, 1960年)
- 現代史の方法 上(共編, 三一書房刊, 1960年)
- 現代日本女性史(三一書房刊, 1962年)
- 日本の歴史 上, 中, 下(岩波書店刊, 1963年~1966年)
- 日本部落解放運動史(共著, 三聯書店刊, 1965年, 出版地:北京)
- 日本の歴史 第20 明治維新(中央公論社刊, 1966年)
- 戦後日本の歴史(現代評論社刊, 1966年)
- 日本の「近代化」と軍国主義(新日本出版社刊, 1966年)
- 日本女性史 新版(三一書房刊, 1967年)
- 近代日本の争点 上, 中, 下(共編, 毎日新聞社刊, 1967, 1968年)
- 日本近代史の見方(田畑書店刊, 1968年)
- 日本帝国主義の形成(岩波書店刊, 1968年)
- 東大闘争 その事実と論理(現代評論社刊, 1969年)
- 部落の歴史と解放理論(田畑書店刊, 1969年)
- 大正期の政治と社会(岩波書店刊, 1969年)
- 西郷隆盛 上, 下(中央公論社刊, 1970年)
- 「尖閣」列島 釣魚諸島の史的解明(現代評論社刊, 1972年)
- 大正期の急進的自由主義 『東洋経済新報』を中心として(共編, 東洋経済新報社刊, 1972年)
- 歪められた古代史(共編, 毎日新聞社刊, 1973年)
- 歴史に何を学ぶか 羽仁五郎・井上清現代史対談(共著, 現代評論社刊, 1973年)
- 日本の歴史 20 明治維新(中央公論社刊, 1974年, 中公文庫)
- 宇垣一成(朝日新聞社刊, 1975年)
- 日本の軍国主義 新版 1~4(現代評論社刊, 1975, 1977年)
- 天皇の戦争責任(現代評論社刊, 1976年)
- 論集現代史 井上清先生還暦記念論文集(筑摩書房刊, 1976年)
- 昭和の五十年(講談社刊, 1976年)
- 不屈のマルクス主義者河上肇 生誕百年を記念して(現代評論社刊, 1980年)

米騒動 『神戸川崎三菱造船所大争議まで』 劇画民衆史（解説，而立書房刊，1981年）
 私の現代史論（大阪書籍刊，1982年）
 京都の部落史 1～10（共編，京都部落史研究所刊，1984年～1995年）
 日本の歴史 20 明治維新（中央公論社刊，1984年，中公パックス）
 天皇・天皇制の歴史（明石書店刊，1986年）
 天皇制と部落差別 さわらぬ神にたたりあり（明石書店刊，1988年）
 昭和の終焉と天皇制の現在 講座・天皇制論（共著，新泉社刊，1988年）
 日中戦争と日中関係 盧溝橋事件50周年日中學術討論会記録（共編著，原書房刊，1988年）

元号制批判 やめよう元号を（明石書店刊，1989年）
 昭和天皇の戦争責任（明石書店刊，1989年）
 人民史観から見た維新、天皇制（梓書店刊，1990年）
 明治維新と中岡慎太郎 中岡慎太郎先生生誕百五十周年記念講演集（共著，中岡慎太郎先生生誕百五十周年記念行事実行委員会刊，1990年）
 天皇の戦争責任（岩波書店刊，1991年）
 日本軍は中国で何をしたのか（共著，熊本出版文化会館刊，1994年）
 「尖閣」列島 釣魚諸島の史的解明（第三書館刊，1996年）
 復刊 米騒動の研究 第1巻～第5巻（共編，有斐閣刊，1997年）

収集図書（2001年10月～12月受入）

総記 図書館

図書館の自由に関する事例33選（日本図書館協会図書館の自由に関する調査委員会編，日本図書館協会刊，1997.6）：2,400円

総記 逐次刊行物

旅劇場 vol.1（京楽座出版部刊，2001.7）《中西和久 説経節三部作の世界》

総記 博物館

古代国家の始まり 近江野洲の王たち（銅鐸博物館編刊，2001.10）《特別展図録》
 シベリアを越えて 杉原千畝のビザとユダヤ人たちの脱出行（銅鐸博物館編刊，2001.7）《平和と人権の写真展 [寿福滋写真展] 展示解説書》
 吹田市立博物館とその周辺 吹田風土記の丘・紫金山公園の構想に向けて（吹田市立博物館編刊，2001.10）《平成13年度特別陳列図録》
 世界遺産と暮らす街 宇治の名宝（宇治市歴史資料館編刊，2001.10）《特別展目録》
 丹後京極氏と肖像画の世界（京都府立丹後郷土資料館編刊，2001.10）《特別展展示解説図録》

部落問題 総記

人権読本（鎌田慧編著，岩波書店刊，2001.11）：740円

《いじめ，虐待，高齢者，過労死，など現場からのレポートをとおして考える。岩波ジュニア新書》

K G人権ブックレット 5（関西学院大学人権教育研究室刊，2001.12）

被差別民とその部落の起こりと歴史 被差別部落法制史と人権（山中順雅著，国書刊行会刊，2001.9）

部落差別と人権（川内俊彦文，貝原浩イラスト，現代書館刊，1990.12）：1,200円

部落差別と人権 2（川内俊彦文，貝原浩絵，現代書館刊，1998.1）：1,200円

部落問題 生活・宗教・伝記

朝田善之助全記録 48（朝田教育財団刊，2001.10）：1,000円

宗教と人権（和歌山県部落解放・人権研究所編刊，2001.8）《研究所ブックレット第1号》

部落差別と宗教（川内俊彦文，貝原浩イラスト，現代書館刊，2001.11）：1,200円

米田富と水平社のころ（師岡佑行編，阿吽社刊，2001.11）：2,400円

部落問題 歴史

近世身分制と被差別部落（脇田修著，部落問題研究所刊，2001.11）：4,800円

地域史研究と被差別民史の接点（全国部落史研究交流会編刊，2001.8）《部落史研究5》：1,470円

都市大坂と非人(塚田孝著,山川出版社刊,2001.11):
800円
文明開化と差別(今西一著,吉川弘文館刊,2001.10):
1,700円
物語と史料で綴る新しい三重の部落史 第2集(三重
県部落史研究交流会著,三重県厚生会刊,2001.6)

部落問題 同和行政・実態調査

[大分県]分野別人権教育教材 1~8(大分県生活環
境部人権・同和対策課編刊,[2001])
大阪市生活実態・学習理解度調査 地区別クロス集
計資料 両国地区(大阪市教育委員会刊,[1996])
大阪市生活実態・学習理解度調査報告書 分析編(大
阪市教育委員会刊,1996.3)
「上但馬」生活実態調査結果報告書 調査から見え
てきたもの(三宅町刊,1996.12)
加茂町同和地区教育調査報告書(加茂町の同和教育を
すすめる会編刊,1999.3)
黒い陽炎 県閩融資究明の記録(高知新聞社刊,2001.
11):1,300円
人権と同和問題についての府民意識調査報告書(京
都府刊,1995.4)
人権と同和問題についての府民意識調査報告書 統
計表(京都府刊,1995.4)
宝塚市同和教育にかかると教育総合調査報告書 分析
結果編(宝塚市同和教育にかかると教育総合調査研究委員
会刊,1995.3)
宝塚市同和教育にかかると教育総合調査報告書 資料
編(宝塚市同和教育にかかると教育総合調査研究委員会刊,
1995.3)
同和教育実態調査報告書(福岡県教育委員会,同和教
育実態調査実行委員会編,福岡県教育委員会刊,1992.3)
同和教育に関する箕面市教育総合実態調査結果報告
書(箕面市教育委員会刊,1990.3)
同和地区実態把握等調査 同和地区関係住民意識調
査報告書 平成5年度(京都府刊,1995.4)
被差別部落における教育機会に関する実証的研究
低学力問題を中心として(大阪大学人間科学部刊,198
6.3)
みよし人権文芸賞5年の歩み 生命の尊さや平和のメッ
セージ(三次市平和人権センター編刊,2001.3)

部落問題 解放運動

故駒井昭雄中央副委員長 京都府連委員長部落解放

同盟葬[パンフレット](部落解放同盟中央本部,部
落解放同盟京都府連合会刊,2001.12)
水平社の原像 部落・差別・解放・運動・組織・人
間(朝治武著,解放出版社刊,2001.10):2,730円
同和問題の解決に向けて 第3集 なんてやねん一問
一答(矢田啓発冊子編集委員会編,大阪市同和事業促進
矢田地区協議会刊,2001.9):500円

部落問題 教育

学力と自己概念 人権教育・解放教育の新たなパラ
ダイム(池田寛著,部落解放・人権研究所刊,2000.9):
2,520円
地域の教育改革 学校と協働する教育コミュニティ
(池田寛著,部落解放・人権研究所刊,2000.9):2,100
円
地域の教育改革と学力保障(部落解放研究所編刊,19
96.9):2,625円
協働の教育による学校・地域の再生 大阪府松原市
の4つの中学校区から(池田寛研究室刊,2001.8)

日本の差別問題

隔離から解放へ ハンセン病と真宗([真宗大谷派同
和推進本部]刊,2001.11)
サバイバー・フェミニズム(高橋りりす著,インパク
ト出版会刊,2001.4):1,700円
朝鮮ハンセン病史 日本植民地下の小鹿島(滝尾英二
著,未来社刊,2001.9):3,500円
統一コリアのチャンピオン ボクサー徳山昌守の闘
い(高賛侑著,集英社刊,2001.9):735円

世界の差別問題

マルコムXワールド(佐藤良明監修,径書房編集部編,
径書房刊,1993.3)

日本史

一揆と戦国大名 日本の歴史第13巻(久留島典子著,講
談社刊,2001.11):2,200円《「国家」の再編、「村」
や「町」の創成》
岩波日本史辞典(岩波書店刊,1999.10)
周縁から見た中世日本 日本の歴史第14巻(大石直正,
高良倉吉,高橋公明著,講談社刊,2001.12):2,200円
《日本を越えた活力,繁栄,交流》
中世の精神世界 死と救済(池見澄隆著,人文書院刊,
1997.6):3,200円《「看とり」と「葬送」を照らす》

中世の都市と非人(松尾剛次著,法蔵館刊,1998.12):
3,600円

中世の風景 上,下(阿部謹也,網野善彦,石井進,樺
山紘一著,中央公論新社刊,1981.4~5):各756円

中世の風景を読む 第1巻~第7巻(網野善彦,石井進
編,新人物往来社刊,1994.12~1995.12):各3,150円
《1蝦夷の世界と北方交易,2都市鎌倉と坂東の海に暮ら
す,3境界と鄙に生きる人々,4日本海交通の展開,5信仰
と自由に生きる,6内海を躍動する海の民,7東シナ海を
囲む中世世界》

日本史人物辞典(日本史広辞典編集委員会編,山川出
版社刊,2000.5)

室町人の精神 日本の歴史第12巻(桜井英治著,講談
社刊,2001.10):2,200円

洛中洛外の群像 失われた中世京都へ(瀬田勝哉著,
平凡社刊,1994.8):4,200円

社会科学

公共性(齊藤純一著,岩波書店刊,2000.5):1,200円

女性ライフサイクル研究 第11号(女性ライフサイク
ル研究所刊,2001.11)《特集:子どもの虐待 新恵里
「子ども虐待の対応について 施行後の児童虐待防止法
を考える」所収》

大衆教育社会のゆくえ 学歴主義と平等神話の戦後
史(苅谷剛彦著,中央公論新社刊,1995.6):700円

はじめよう!被害者支援 地域から創る支援システム
(被害者支援を創る会編,幹書房刊,2001.11):1,000
円

絵画

一遍聖絵を読み解く 動きだす静止画像(武田佐知子
編,吉川弘文館刊,1999.1):7,500円《脇田晴子「一遍
聖絵・遊行上人縁起絵と被差別民」所収》

文学

ベルリン1933(クラウス・コルドン作,酒寄進一訳,
理論社刊,2001.2):2,400円

収集逐次刊行物目次(2001年10月~12月受入)

~各逐次刊行物の目次の中から編集部判断でピックアップしました~

明日を拓く 40(東日本部落解放研究所刊,2001.3):
1,000円

特集 関東大震災時における襲撃・虐殺と被差別者

関東大震災時の朝鮮人虐殺と背景 石田貞/福田村事件
とは何か 関東大震災直後、利根河畔における行商団
虐殺 市川正廣/世良田事件・関東水平社の成立と自警
団 松島一心

明日を拓く 41(東日本部落解放研究所刊,2001.9):
1,000円

特集 狭山事件

弾左衛門家の墓石と菩提寺の考証ノート 松岡満雄

跡地発 15(街づくり推進協議会刊,2001.10)

十人十色の部落問題8 水平社宣言との何度目かの出会い
中田ひとみ

ウィングスきょうと 第47号(京都市女性協会刊,200
1.12)

コミックで考えるジェンダー 『静かの海』(一條裕子著)
村上知彦

図書情報室新刊案内

『家族に潜む権力』(ユーラン・アーネ,クリスティー・
ロマーン著)/『アメリカ・フェミニズムのパイオニ
アたち 植民地時代から1920年代まで』(武田貴子,
緒方房子,岸本裕子著)/『副知事日記 私の地方行政
論』(坂東眞理子著)/『教科と教師のジェンダー文
化 家庭科を学ぶ・教える女と男の現在』(堀内かおる
著)

大阪人権博物館紀要 第5号(大阪人権博物館刊,2001.
12)

大阪における都市部落と学区 南区西浜町をめぐる「学
区分合」問題 吉村智博

「里見水平社解散」の真相 朝治武

日中戦争期の在阪沖縄人 仲間恵子

西光万吉とアジア・国家・民族 和栄政策を中心に 文
公輝

部落解放全国婦人集会の開催とその意義 第一回、二回
を中心に 濱口亜紀

兵庫県「不幸な子どもの生まれない運動」と障害者の生
松永真純

- 大阪人権博物館の展示と教育事業 地域と人権を一体化すること 小島伸豊
- 大阪の部落史通信 27 (大阪の部落史委員会刊, 2001.10)
- 明治初期における大阪の芸能 非人身分とその芸能 中島智枝子
- 多様な被差別民観について 森田康夫
- 新聞記事と部落14 米騒動と部落2 里上龍平
- 岡山部落解放研究所報 第225号 (岡山部落解放研究所刊, 2001.11) : 100円
- ハンセン病行政にみる偏見・差別と人権侵害 若林義夫
- 解放教育 407 (解放教育研究所編, 2001.11) : 690円
- 特集 メディア教育と教材開発
- 調査に見る素顔のいまどき高校生5 学校でがんばる子・意欲のある子はどこに 鍋島祥郎
- 解放教育 408 (解放教育研究所編, 2001.12) : 690円
- 特集 学力保障への射程 いま、学力問題とは何か
- 米国同時多発テロ事件の読み方 その歴史的背景から 奈良本英佑
- 調査に見る素顔のいまどき高校生6 生徒様は神様です 鍋島祥郎
- メディアの裏側から見た部落差別 森達也
- 解放教育 409 (解放教育研究所編, 2002.1) : 690円
- 特集 ジェンダーと教育 子どもの「今」から
- 調査に見る素顔のいまどき高校生7 保護者様も神様です 鍋島祥郎
- 図書紹介 『人権啓発絵本 やったネ』 (河野秀忠、折田みどり、穂土ちとせ、逢坂悟郎文) 堀智晴
- 月刊解放の道 213号 (全国部落解放運動連合会刊, 2001.10) : 350円
- 「同和教育」を終結させ、憲法・教育基本法と子どもの権利条約が生きる教育を 全教・討議資料
- 月刊解放の道 214号 (全国部落解放運動連合会刊, 2001.11) : 350円
- 県民的世論と運動で「同和行政の終結・廃止」実現をめざす滋賀県からの報告 鈴木勉市
- 京都市 今、なぜ同和行政終結決議か 山中渡
- 月刊解放の道 215号 (全国部落解放運動連合会刊, 2001.12) : 350円
- 神戸における同和对策の終結と部落解放運動の発展的転換について 森元憲昭
- 同和特別行政から人権確立行政への転換 「北九州市における平成14年度以降の人権・同和行政のあり方について」(答申)を検証する 植山光朗
- かわとはきもの 117 (東京都立皮革技術センター台東支所刊, 2001.9)
- 靴の歴史散歩62 稲川實
- 現代靴職人志望事情考 技術者養成の必要性とその背景 平田秀雄
- 季節よめぐれ 第167号 (京都解放教育研究会刊, 2001.12)
- 確かなつながりを生きるちからに 公教育としての「学校(高校)」の課題を考える 徳永信一
- 季節よめぐれ 第168号 (京都解放教育研究会刊, 2002.1)
- 近代部落問題の成立 小林丈広
- 人と人をつなぐこと 溝上澄生
- 京都市政史編さん通信 第8号 (京都市市政史編さん委員会刊, 2001.12)
- 首都の桎梏 京都から見たワシントン小論 秋月謙吾
- 1950年京都市長・京都府知事選挙と芦田均 『芦田均日記』を手掛かりに (上) 佐野方郁
- グローブ 27 (世界人権問題研究センター刊, 2001.10)
- 朝鮮通信使3 葵三代と朝鮮通信使 仲尾宏
- 真宗僧侶が視力を失う時 左右田昌幸
- クロノス[時の鳥] 15 (京都橘女子大学女性歴史文化研究所刊, 2001.10)
- 性と生殖をめぐる諸問題3 アメリカ映画「スリー・ウィメン」における妊娠中絶の歴史 鎌田明子
- イギリス女性生活誌15 「女性協同組合ギルド」 女性たちの情報伝達3 松浦京子
- 京のおんなたち 新章文子 京都出身の女性推理作家 細川涼一
- 男と女 美意識の変遷8 美少年をめぐる問題 古川誠
- BOOK REVIEW 『象徴としての女性像 ジェンダー史から見た家父長制社会における女性表象』(若桑みどり著) 志賀亮一
- 藝能史研究 第155号 (藝能史研究會刊, 2001.10) : 1,600円
- 書評 『若衆歌舞伎・野郎歌舞伎の研究』(武井協三著) 山路興造
- 都道府県別民俗芸能緊急調査の現状と課題 民俗芸能の全国的データベースとして 福持昌之
- 研究所通信 278 (部落解放・人権研究所刊, 2001.10) : 100円
- 読んでみたい議論してみたい文献 『協働の教育による学校・地域の再生 大阪府松原市の4つの中学校区から』(大阪大学大学院人間科学研究科池田寛研究室編)

研究所通信 279 (部落解放・人権研究所刊, 2001.11) : 100円

読んでみたい議論してみたい文献

『協働の教育による学校・地域の再生 大阪府松原市の4つの中学校区から』(大阪大学大学院人間科学研究科池田寛研究室編) / 『部落の21家族 ライフヒストリーから見る生活の変化と課題』(部落解放・人権研究所編)

研究所通信 280 (部落解放・人権研究所刊, 2001.12) : 100円

読んでみたい議論してみたい文献

『協働の教育による学校・地域の再生 大阪府松原市の4つの中学校区から』(大阪大学大学院人間科学研究科池田寛研究室編) / 『部落の21家族 ライフヒストリーから見る生活の変化と課題』(部落解放・人権研究所編)

こべる 104号(こべる刊行会刊, 2001.11) : 300円

同和地区住民の流入に関する分析(その1) 大阪「2000年部落問題調査」結果を読む 奥田均

歴史をどう学ぶか 「奈良本辰也先生と部落問題」補遺 師岡佑行

こべる 105号(こべる刊行会刊, 2001.12) : 300円

同和地区住民の流入に関する分析(その2) 大阪「2000年部落問題調査」結果を読む 奥田均

部落史の起源の見直しと現在の部落問題 山本尚友
恐牛病 山城弘敬

ヒロの楽書き帳 多田ヒロミ

こべる 106号(こべる刊行会刊, 2002.1) : 300円

部落問題の転換点に立って 八木晃介

「踏まれたものの痛み」再考 加藤陽一

追悼 井上清先生を送る 藤田敬一

雑学 24号(下之庄歴史研究会刊, 2001.11) : 800円

相撲のフォークロア世界と部落史 仲林弘次

上熊野地の坤…… 新宮部落史年表作成に関わって(3)

研究課題と問題点 守安敏司

私の部落問題(5) 『天理大学民族差別発言・集団暴行事件』(その2) 小坂正一

自由闊達に生きた人々(5) ときには異能者として 上野茂

史料紹介 『同和通信』総目次 金井英樹

差別とたたかう文化 23(「差別とたたかう文化」刊行会刊, 2001.12) : 400円

「唯一の被爆国」を越えて 在韓被爆者が提起するもの 重哲雄

「在日」の人権問題の底にあるもの 仲尾宏

著者に聞く 被差別部落民の内面 土方鐵著 『小説 石田波郷』をめぐって 山口公博

狭山差別裁判 第334号(部落解放同盟中央本部中央狭山闘争本部刊, 2001.10) : 300円

特集 司法改革を考える

狭山差別裁判 第335号(部落解放同盟中央本部中央狭山闘争本部刊, 2001.11) : 300円

特集 司法改革を考える

狭山差別裁判 第336号(部落解放同盟中央本部中央狭山闘争本部刊, 2001.12) : 300円

BOOK 『13階段』(高野和明著)

月刊滋賀の部落 326号 特別号(滋賀県同和問題研究所刊, 2001.10) : 600円

人権擁護施策推進審議会「人権救済制度の在り方について(答申)」の批判的検討 部落問題解決から導き出された人権救済のゆくえ 川辺勉

月刊滋賀の部落 327号(滋賀県同和問題研究所刊, 2001.10) : 400円

蒲生郡西村の一史料(1) 藤田恒春

史料紹介 大正初期の部落改善運動 名古屋新聞より(下) 松浦国弘

月刊滋賀の部落 328号(滋賀県同和問題研究所刊, 2001.11) : 400円

蒲生郡西村の一史料(2) 藤田恒春

月刊滋賀の部落 329号(滋賀県同和問題研究所刊, 2001.12) : 400円

部落民の居住 藤田恒春

人権21 調査と研究 154(岡山部落問題研究所刊, 2001.10) : 650円

人権教育の日本的性格と課題4 表現の自由と差別的表現 生田周二

史料は語る4 倉敷村の牢番4 大森久雄

本の紹介

『在日外国人 弁護の現場から』(梓沢和幸著) 竹田稔和 / 『なは、おんなのあしあと』(那覇市総務部女性室、那覇女性史編集委員会編) 萩原俊彦

人権21 調査と研究 155(岡山部落問題研究所刊, 2001.12) : 650円

論文の紹介 劉海年「中国における人権観念の形成と発展」(王家福・劉海年編『人権と21世紀』所収)

書評 『これからの人権の学習 Q & A』(岡山部落問題研究所刊) 畦地享平

本の紹介 『差別・偏見と教育 人権教育への疑問』(生

田周二著) 立花一也

人権教育 第17号(人権教育研究所編, 2002.1): 770円

特集 情報パック*国際人権ガイド
書評

『人権教育への提言 義理・人情から人権へ』(ヒュー
ライツ大阪編)/『移住労働者の権利を宣言する!』
(難民・外国人労働者問題キリスト者連絡会編)/
『子どもと性被害』(吉田タカコ著)/『白書ス
クール・セクシュアルハラスメント 実態・防止・解決』
(子ども性虐待防止市民ネットワーク・大阪編)

情報を超えた教育のかたち『考え、売ります。』(ダ
グラス・ラミス著・知念ウシ訳・村上勝美絵) 佐藤峰

人権教育研究室報 第19号(花園大学人権教育研究室
刊, 2001.12)

第1特集 第15回花園大学人権週間

第2特集 「原爆・部落・朝鮮人・切支丹」現地考察(長
崎)

信州農村開発史研究所報 第76・77号(信州農村開
発史研究所刊, 2001.7)

部落差別と私 横田雄一

ダリット解放運動とは 薄井一央

別冊スティグマ 第14号(千葉県人権啓発センター刊,
2001.11): 2,000円

特集 福田村事件 関東大震災時の行商人虐殺

全朝教通信京都版 40(全国在日朝鮮人教育研究協議
会京都刊, 2001.10): 250円

朝鮮通信使と私 仲尾宏

「新渡日」生徒の現状について 榊井久

同和教育 475(全国同和教育研究協議会編, 2001.10):
150円

人権文化を拓く57 不登校と子どもの人権 奥地圭子

同和教育 476(全国同和教育研究協議会編, 2001.11):
150円

人権教育がひらく同和教育の可能性 平沢安政

人権のまちをゆく7 絵図を歩く 大坂渡辺村

人権文化を拓く57 女性の人権と「女性への暴力」 西澤
真知

同和教育 477(全国同和教育研究協議会編, 2001.12):
150円

人権教育がひらく同和教育の可能性2 平沢安政

人権文化を拓く58 本名キャンペーン 高賛侑

『同和はこわい考』通信 152(藤田敬一刊, 2001.10.
5)

随感・随想 ある点検糾弾会の光景 藤田敬一

『同和はこわい考』通信 153(藤田敬一刊, 2001.12.
24)

採録 野町均「同和行政 問題の所在、自由に論議を」
(『朝日新聞』、01/11/19)

日記 わたしを揺るがした二週間(上) 野町均

ねっとわーく京都 155号(ねっとわーく京都刊行委員
会刊, 2001.12): 500円

同和補助金訴訟 京都市のあきれた言い分「温泉旅行に
税金出してどこが悪い!」 寺園敦史

はらっぱ 212(子ども情報研究センター刊, 2001.10):
700円

私の本棚

『まるく笑ってらくごDE枝雀』(桂枝雀著)/『精霊
流し』(さだまさし著)

はらっぱ 213(子ども情報研究センター刊, 2001.11):
700円

私の本棚

『学級再生』(小林正幸著)/『窓ぎわのトットちゃ
ん』(黒柳徹子著)

はらっぱ 214(子ども情報研究センター刊, 2001.12):
700円

私の本棚

『12月はまいにちがすてき!』(二宮由紀子文, 松永雅
之絵)/『みみずのかんたろう』(たじまゆきひこ絵・
文)

ヒューマンライツ 163(部落解放・人権研究所刊, 200
1.10): 525円

現代史の目2 教授たちの出陣学徒壮行の辞 関西大学の
『学報』にみる 小山仁示

玲子さんの映画批評「千と千尋の神隠し」(宮崎駿監督)
川西玲子

今月のおすすめ

『フェミニズム的転回 ジェンダー・クリティークの
可能性』(大越愛子・志水紀代子・持田季未子・井桁
碧・藤目ゆき著)/『ビジネス倫理10のステップ エシッ
クス・オフィサーの組織変革』(ドーン・マリー・ド
リスコル, W・マイケル・ホフマン著)/『彷徨えるナ
ショナルリズム』(阿部潔著)/『ノーマライゼーショ
ンライブラリー1 障害者はどう生きてきたか 戦前戦後
障害者運動史』(杉本章著)/『ドメスティック・バ
イオレンス 愛が暴力に変わるとき』(森田ゆり著)

ヒューマンライツ 164(部落解放・人権研究所刊, 200
1.11): 525円

現代史の目3 日本人の忘れ物 小山仁示

今月のおすすめ

『少年法(やわらかめ)』(伊藤芳朗監修,新保信長著)/『バリアフリーと広告[Kyoyo-Hin]、そしてユニバーサルデザイン』(共用品推進機構編著)/

『「親」を楽しむ小さな魔法』(エリザベス・クレアリー著)/『顔とトラウマ 医療・看護・教育における実践活動』(藤井輝明編著)/『メディア・リテラシーの現在と未来』(鈴木みどり編)

ヒューマンライツ 165(部落解放・人権研究所刊,2001.12):525円

ポスト「特措法」時代の出発点 データから考える結婚差別問題1 奥田均

著者と一時間 『先住民の「近代史」～植民地主義を超えるために』筆者、上村英明さんに聞く 河昭子

現代史の目4 戦略爆撃・無差別爆撃 小山仁示

今月のおすすめ

『21世紀の経営パラダイム』(倉井武夫・梶原豊編著)/『世界がわかる宗教社会学入門』(橋爪大三郎著)/『グランマの本棚から 親と子の100冊』(山崎慶子著)/『人道的介入 正義の武力行使はあるか』(最上敏樹著)/『フェミニズム・スポーツ・身体』(アン・ホール著)

ひょうご部落解放 102号(兵庫部落解放研究所刊,2001.11):700円

特集 差別がある限り行政施策を

座談会 兵庫の部落の現状と同和施策のありかた/伊丹市同和問題実態調査を終えて 池田千津美/伊丹市の1998年度「部落差別の実態等を把握するための調査」に学ぶ 井上眞理子/同和対策未実施地区を歩く 千種西山地区 前川修

書評

『部落の歴史像 東日本から起源と社会的性格を探る』(藤沢靖介著) 永瀬康博/『地域福祉計画と地域福祉実践』(大橋謙策・原田正樹編) 金井宏司

映画評 「猿の惑星」(ティム・バートン監督) 萩原弘子

部落 681号(部落問題研究所刊,2001.10):525円

特集 「人権救済制度の在り方について」答申批判

本棚 『差別・偏見と教育 人権教育への疑問』(生田周二著)

文芸の散歩道 『破戒』のなかのBGM 蓮華寺の鐘の響き 川端俊英

部落 682号(部落問題研究所刊,2001.11):525円

特集 教師と人権

文芸の散歩道 西鶴作品に著された勸進者たち 『西鶴織留』より 小原亨

部落 683号(部落問題研究所刊,2001.12):525円

特集 日本における民族問題

座談会 在日コリアンの生活と人権 大阪市生野区を中心に 高賛侑・朴一・小牧薫・河野律/在日朝鮮人社会のアイデンティティとチェーサ(祭祀) 梁愛舜
同和行政終結にむけて4 神戸市同和对策協議会の解散と自立型住民運動の展開 森元憲昭

文芸の散歩道 『貧しき隣人』(富本一枝著) 片岡清子

部落 684号(部落問題研究所刊,2001.12):840円

特集 ハンセン病隔離政策の人権侵害

部落問題をめぐる主な動き(2000年4月~2001年3月)
2000年度部落問題研究所定期誌目次

部落解放 493号(解放出版社刊,2001.11):630円

特集 漂泊に生きた人びと

メディアのミレニアム 顔面への侮辱表現と「ハリー・ポッター」事件 石井政之

映像フリースペース 「赤い橋の下のぬるい水」(今村昌平監督) 白井佳夫

やっぱり今この本を 18 『卵と小麦粉それからマドレーヌ』(石井睦美作) 今江祥智

本の紹介

『坊主午睡』(狩野俊猷著)/『じんけんスキルブック』(兵庫県人権・同和教育研究協議会編)/『第2期国際身分制研究会報告書』(国際身分制研究会編)/『解放運動夜話』(小森龍邦著)

アイヌのななが悪い! 砂澤嘉代

ホルモン奉行外伝2 油かす篇(下) 角岡伸彦

部落解放 494号(解放出版社刊,2001.12):630円

特集 隣保館活動の新展開

映像フリースペース 「アモーレス・ペロス」(アレハンドロ・ゴンサレス・イニャリトゥ監督)

やっぱり今この本を 19 『ベルリン1933』(クラウス・コルドン作/酒寄進一訳) 山下明生

「部落の技」と部落民のアイデンティティ 浅居明彦

現代韓国女性の生き方 朴惠蘭

ホルモン奉行外伝3 サイボシ篇 角岡伸彦

部落解放 495号(解放出版社刊,2002.1):630円

特集 まだ終わっていないハンセン病問題

座談会 太陽の輝きを形に/「法の執行」が生んだ「恐怖宣伝」ハンセン病者の近現代 藤野豊/ハンセン病と勃興期の探偵小説 正木不如丘と小酒井不木 細川涼

—

駒井昭雄さんを悼む いまも眼の底にきみがいる 土方鐵
映像フリースペース ビデオ・ドキュメンタリー「人らしく
生きよう 国労冬物語」(松原明・佐々木有美監督)

白井佳夫

東京音楽通信 子守唄「竹田こいこい節」 藤田正

やっぱり今この本を 20 『センセイの鞆』(川上弘美著)

今江祥智

本の紹介

『被差別部落ゼロ? 近代富山の部落問題』(藤野豊著)
/ 『教材資料集「...を50分で学習する」 参加型学習の
展開と、「人権」を考える授業』(長崎県部落史研究
所刊)/ 『異文化理解』(青木保著)/ 『宗教と人権』
(和歌山県部落解放・人権研究所編)

座談会 解放奨学金の理念を継承した奨学金制度の創設を
「同和」行政の成果を社会に還元する 岡田健悟・猶原寿
彦・新居晴幸

孤立のアフガン 中村哲

ホルモン奉行外伝4 怒りの奉行、「狂牛病」騒動を斬る
篇 角岡伸彦

部落解放運動情報 62号([部落解放運動・情報] 編集
委員会刊, 2001.11): 300円

こんな本がでています

『弱いから折れないのさ』(岡部伊都子著)/ 『世界
2001年11月号』対談 米同時テロ以後の世界経済

部落解放研究 第142号(部落解放・人権研究所刊, 200
1.10): 1,000円

特集 企業の社会的責任と人権

企業と人権をめぐるグローバルな動き 梅田徹/ 女性を
活かす企業は伸びる 金谷千恵子/ 企業と障害者雇用
白井久実子/ 企業と部落問題 大阪同和問題企業連絡会
/ 「社会的責任投資」(SRI)が日本を変える 高巖/
社会的責任投資の動向と新基準の公表 R-BEC001を提
案する背景と基本的な考え方 麗澤大学企業倫理研究セ
ンター

ジェンダー意識と学習・進学意欲のかかわり(上) T
中学校における質問紙調査結果から 玉井真理子

戦後部落住民意識調査に見る「部落民」としてのアイデ
ンティティ状況(中) 内田龍史

近代の西浜とキリスト教(上) 19世紀末、大阪基督教
会の活動 友寄景方

部落の若い世代はいま4 部落と部落外の人の結婚をめぐっ
て 結婚問題研究会事務局

書評

『戦時下の社会～大阪の一隅から』(横山篤夫著) 小
山仁示/ 『ジェンダー・マネジメント: 21世紀型男女
共創企業に向けて』(佐野陽子・嶋根政充・志野澄人
編) 古久保さくら

部落解放研究 第143号(部落解放・人権研究所刊, 200
1.12): 1,000円

特集 国連と部落問題

人種差別撤廃条約にいう“descent”という文言の意味
について 村上正直/ カースト差別～地球規模の課題
ヒューマン・ライツ・ウォッチ

資料紹介 韓国の「国家人権委員会法」を概観する 金東
勲

デジタル・プライバシーの危機 住民基本台帳ネットワ
ークシステムの問題性 園田寿

ジェンダー意識と学習・進学意欲のかかわり(下) T
中学校における質問紙調査結果から 玉井真理子

戦後部落住民意識調査に見る「部落民」としてのアイデ
ンティティ状況(下) 内田龍史

近代の西浜とキリスト教(下) 19世紀末、大阪基督教
会の活動 友寄景方

部落解放ひろしま 第55号(部落解放同盟広島県連合
会刊, 2001.11): 1,000円

特集 部落問題との出会い

日本文化の因習を考える12 「仏教教団の因習・習俗」を
問う射程4 今に残る本願寺教団の封建身分制度・慣習

(中) 「院号は差別以外の何物でもない」 小武正教
部落解放史ふくおか 第103号(福岡部落史研究会刊,
2001.9): 1,050円

特集 差別事件から何を学ぶか

福岡県における差別事件とその課題 部落解放同盟福岡
県連合会/ 筑紫地区における差別事象 その概要と取
り組み 部落解放同盟筑紫地区協議会/ 九州大学にお
ける差別落書き事件をめぐる 新谷恭明/ 差別事件を
読む 加藤陽一

史料紹介 「安永七戌年十月 穢多非人風俗之儀二付御触
書并御請状之写(仮)」 竹森健二郎

書評

『坊主午睡』(狩野俊猷著) 新谷恭明/ 『定心 黒松
氏追悼遺稿集』 金山登郎

月刊部落問題 298号(兵庫人権問題研究所刊, 2001.10):
350円

特集 「人権問題研究講座」から

在日韓国・朝鮮人問題 古くて常に新しい問題につい
て 鄭早苗/ 精神障害者地域福祉の現場にて思う 心

と心で手をつなごう 池山美代子
 月刊部落問題 299号(兵庫人権問題研究所刊, 2001.11):
 350円
 特集 神戸市同和対策協議会「答申」
 「神戸市同和対策協議会」解散と自立型の住民運動の
 発展 森元憲昭
 月刊部落問題 300号(兵庫人権問題研究所刊, 2001.12):
 350円
 特集 人権教育・啓発を考える
 近代の社会的差別58 友愛会の歴史的意義と社会事業12
 布川弘
 松崎天民が石川啄木を驚かせる新聞記者となるまで(1)
 天民「新聞配達」をめぐる 後藤正人
 民権協ニュース 129(在日韓国民主人権協議会刊, 200
 1.8): 300円
 書籍紹介 『日本国憲法・検証1945-2000 資料と論点第5
 巻 九条と安全保障』
 民権協ニュース 130(在日韓国民主人権協議会刊, 200
 1.9): 300円
 CINEMA GUIDE 「GO」(行定勲監督) 在日の青春像、
 巧みに描く 朴英一
 民権協ニュース 131(在日韓国民主人権協議会刊, 200
 1.10): 300円
 CINEMA GUIDE 「猟奇的な彼女」(クァク・ジェヨン監督)、

「新羅の月夜」(キム・サンジン監督) 朴英一
 もやい ながさき部落解放研究 第43号(長崎県部落
 史研究所刊, 2001.10): 700円
 キリシタンと部落 その歴史的諸関係をめぐって 阿南
 重幸
 オットー・モーニケ(1814~1887) 『日本の「エタ」あ
 るいは「エトリ」』解説と翻訳 園田尚弘
 モーニケの見聞録を読んで 藤澤秀雄
 書評 『部落の21家族 ライフヒストリーからみる生活の
 変化と課題』(部落解放・人権研究所編) 松尾洋
 フィールドワーク資料 長崎原爆と部落
 Rights ライツ 29(鳥取市人権情報センター刊, 2001.
 10)
 今月のいちおし! 『星のおじいさま』(大野隆司作)
 Rights ライツ 31(鳥取市人権情報センター刊, 2001.
 12)
 今月のいちおし! 『隔離 故郷を追われたハンセン病者
 たち』(徳永進著) 清水祐加
 ルシファー 第4号(水平社博物館刊, 2001.10)
 公開講座報告
 「朝鮮の被差別民衆と衡平社運動 水平社との交流」
 金井英樹 / 「奈良 柏原から、京都 岡崎へ」 山内政
 夫
 資料紹介 「沖野岩三郎名刺」

新聞書評欄等 (2001年10月~12月受入)

~各新聞から書評・映画評・VIDEO評等をピックアップしました~

解放新聞 第2039号(解放新聞社刊, 2001.10.8): 80
 円
 今週の1冊 『人体バイオテクノロジー』(粥川準二著)
 解放新聞 第2040号(解放新聞社刊, 2001.10.15): 80
 円
 今週の1冊 『旅人の時代に向かって 21世紀の宣教と神学』
 (渡辺英俊著)
 解放新聞 第2041号(解放新聞社刊, 2001.10.22): 80
 円
 今週の1冊 『イスラム世界と欧米の衝突』(宮田律著)
 解放新聞 第2042号(解放新聞社刊, 2001.10.29): 80
 円
 今週の1冊 『ウォーラステイン』(川北稔編)
 山口公博が読む今月の本
 『石堂清倫 20世紀の意味』(石堂清倫著) / 『風の男

白洲次郎』(青柳恵介著) / 『白洲正子自伝』(白洲
 正子著)
 解放新聞 第2043号(解放新聞社刊, 2001.11.5): 120
 円
 今週の1冊 『逆転 アメリカ支配下・沖縄の陪審裁判』
 (伊佐千尋著)
 解放新聞 第2045号(解放新聞社刊, 2001.11.19): 80
 円
 今週の1冊 『敗北を抱きしめて 第二次大戦後の日本人』
 (ジョン・ダワー著)
 解放新聞 第2046号(解放新聞社刊, 2001.11.26): 80
 円
 今週の1冊 『ひと日記』(中西和久著)
 山口公博が読む今月の本
 『漱石文明論集』(三好行雄編) / 『山の郵便配達』

(彭見明著) / 『水平の人 栗須七郎先生と私』(鄭承博著)
 解放新聞 第2047号 (解放新聞社刊, 2001.12.3) : 120円
 映画 「よみがえれカレーズ」(土本典昭, 熊谷博子, アブドゥル・ラティーフ監督)
 解放新聞 第2048号 (解放新聞社刊, 2001.12.10) : 80円
 今週の1冊 『個人情報保護法の狙い』(臺宏士著)
 解放新聞 第2049号 (解放新聞社刊, 2001.12.17) : 80円
 今週の1冊 『戦争はなぜ起こるか』(佐藤忠男著)
 解放新聞 第2050号 (解放新聞社刊, 2001.12.24) : 80円
 今週の1冊 『ナショナルリズム』(姜尚中著)
 山口公博が読む今月の本
 『血と骨』(梁石日著) / 『宮廷の道化師たち』(アヴィグドル・ダガン著) / 『文明の海洋史観』(川勝平太著)
 解放新聞改進黨 第287号 (部落解放同盟改進黨支部刊, 2001.10)
 私の本棚 144 『2005年あなたの暮らしはこうなる』(三和総合研究所編) 岡田一志

解放新聞東京版 第534号 (解放新聞社東京支局刊, 2001.10.15) : 90円
 反差別の視点から見た白井佳夫の映像批評160 「アイ・ラブ・フレンズ」(大澤豊監督)
 解放新聞東京版 第537号 (解放新聞社東京支局刊, 2001.12.1) : 90円
 反差別の視点から見た白井佳夫の映像批評 161 「がんばれ、リアム」(スティーヴン・フリアーズ監督)
 解放新聞東京版 第538号 (解放新聞社東京支局刊, 2001.12.15) : 90円
 反差別の視点から見た白井佳夫の映像批評 162 「GO」(行定勲監督)
 なら解放新聞 第680号 (奈良県部落解放同盟支部連合会刊, 2001.10.25) : 140円
 期待と直言・友人として 5 藤田敬一
 摂食障害ってなんやろ 6 すー
 なら解放新聞 第682号 (奈良県部落解放同盟支部連合会刊, 2001.11.25) : 140円
 摂食障害ってなんやろ 7 すー。
 なら解放新聞 第683号 (奈良県部落解放同盟支部連合会刊, 2001.12.25) : 140円
 摂食障害ってなんやろ 9 すー。
 読書 『教師・親のための子ども相談機関利用ガイド』(小林正幸・嶋崎政男編)

事務局より

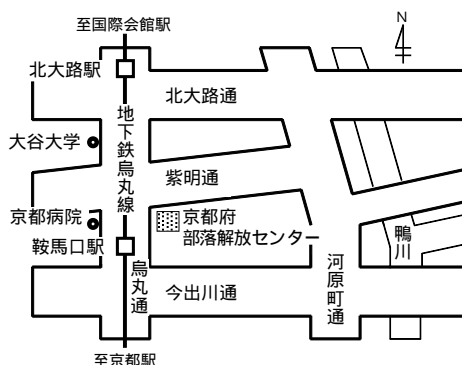
昨年11月23日に亡くなりました井上清先生への追悼文を師岡さんを書いていただきました。毎日新聞(2001年12月14日付)掲載の追悼文に加筆していただいたものです。

12月、1月と大学生の図書資料室の利用が増えています。人権関係科目のレポート作成のための資料を探しに来られる方がほとんどなのですが、これをきっかけに、つっこんで研究してやろうという学生が出てくるといいのですが...

前号でお知らせしました「『京都の部落史』史料を読む 第2回」は次号に掲載します。お楽しみに。

Memento 7

発行日 2002年1月25日 / 編集・発行 京都部落問題研究資料センター



所在地 〒603-8151
 京都市北区小山下総町5-1
 京都府部落解放センター 3階
 TEL/FAX 075-415-1032
 U R L <http://www.asahi-net.or.jp/qm8m-ndmt/>
 開室日時 月曜日～金曜日 第2・4土曜日 10時～17時
 (祝日・年末年始は休みます)
 交通機関 市営地下鉄烏丸線「鞍馬口」駅(京都駅より約10分)下車 北へ徒歩2分